10月22日公開

第２回　国連総会で世界地図に関する決議が採択

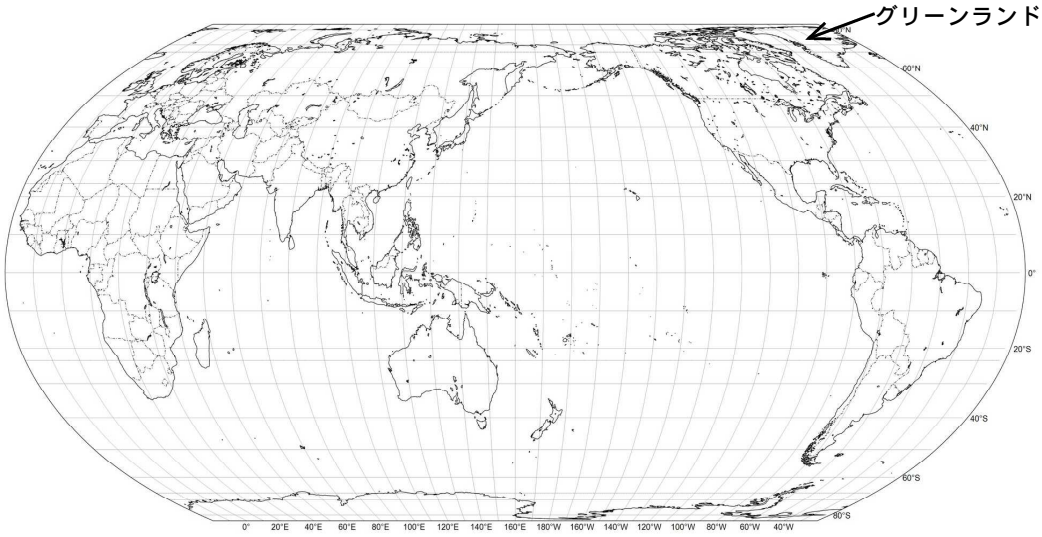
９月４日、国連総会で世界地図に関する決議が採択されました。これまで広く使われてきたメルカトル図法に代わる選択肢として、地図上の面積の比が実際と同じになるイコールアース図法の使用を各国に促す内容でした。日本を含む164か国が賛成し、反対はアメリカのみ、棄権は６か国でした。

メルカトル図法は、16世紀に考案された地図の図法です。メルカトル図法では、角度が正しく示されるため、航海図として重宝されてきました。しかしその一方で、北極や南極に近い地域では面積が大きく引き伸ばされるという問題がこれまでも指摘されていました。

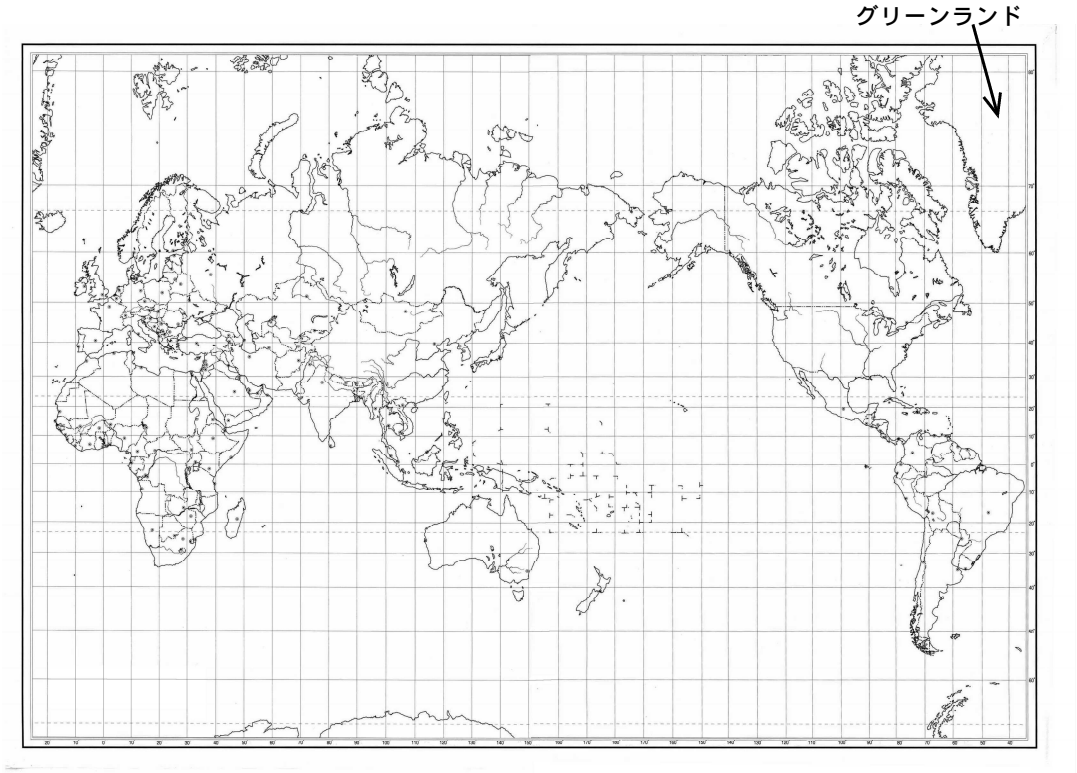
今回の決議案のきっかけとなったのは、アフリカ諸国の訴えでした。アフリカ大陸の面積は、北極に近いグリーンランドの約14倍の面積であるにもかかわらず、メルカトル図法では、グリーンランドがアフリカ大陸とほぼ同じ大きさで表示されてしまいます。こうしたことがアフリカへの誤ったイメージにつながると訴えてきたのです。

一方、イコールアース図法は地図上の面積の比が実際と同じになります。その代わりに地図の端にいくほど、面積以外の要素が不正確になってしまいます。

国連総会は、国連加盟国193か国すべてが参加する話し合いの場です。毎年９月にアメリカのニューヨークにある国連本部で開かれ、国の大小に関係なく１か国が１票を持ちます。今回の決議案はアフリカ連合（ＡＵ）に加盟する国々とカリブ海にある国のバハマが提出しました。



イコールアース図法で示された世界地図



メルカトル図法で示された世界地図

チャレンジ問題

1　メルカトル図法について述べた文として正しいものを次から選んで、記号で答えなさい。

ア　20世紀に考案された地図の図法です。

イ　角度が正しく示されます。

ウ　グリーンランドなど、北極に近い地域（ちいき）では面積が小さく表示されます。

エ　2026年の国連総会でこの図法を使用することを促（うなが）す決議が採択されました。

2　9月4日に国連総会で採択された世界地図に関する決議は、ある地域の国々の訴（うった）えがきっかけとなりました。この地域を次から選んで、記号で答えなさい。

ア　アフリカ　　イ　南アメリカ　　ウ　ヨーロッパ　　エ　オセアニア

答え

1　**イ**
2　**ア**